

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102509		
法人名	有限会社 三陽コーポレーション		
事業所名	アーバンケア三歳		
所在地	岐阜市三歳町5丁目1番地8		
自己評価作成日	令和5年7月10日	評価結果市町村受理日	令和5年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2170102509-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2170102509-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」「その人のペースで」をモットーに、ゆったりと安心して生活できるよう支援しています。  
 地域との交流も積極的に受け入れて下さる関係ができ、地域密着にはげんでいます。家庭的で笑顔いっぱいのホームです。  
 訪問看護ステーションとの契約に依り、医療面での充実も計っています。  
 現在は入居者様をお守りする為、コロナ感染予防を全力で努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から、「本荘まちづくり協議会」の委員を務め、地域の活動等に参加している。地域の文化祭には、利用者が作品を出展できるよう支援し、生きがいと共に楽しみながら交流ができるよう取り組んでいる。食事は、職員が旬の食材を使って、味付けと栄養バランスに配慮しながら、三食とも手作りしている。季節の行事食や利用者の好む献立も取り入れながら、食べる楽しみと満足感に繋げている。常勤職員とパート職員の区別なく、全員で利用者に寄り添い、「その人らしさ」や「その人のペースで」をモットーに出来る事を支えている。また、地域と取り組む防災体制や医療機関との連携体制で、利用者の安心安全な暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切に、1人1人のリズム、ペースに合わせ、地域の中で心と暮らしを支えます」を理念に管理者、職員全員が日常のケアに取り組んでいる。	目につきやすいエレベーター内や事務所に、理念を掲示している。職員は出退社時に確認し、理念に沿った支援を実践している。ミーティングや申し送りでも確認しながら、利用者が、日々、喜びを感じながら暮らせる支援に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(敬老会、盆踊り等)には、積極的に利用者、職員が参加し、交流に努めている。又、地域の方がボランティアでフラワーアレンジや絵手紙を教えて下さっている。地域の方に観て頂こうと、文化祭出品の貼り絵や習字等の製作に取り組んでいる。(現在はコロナ感染予防の為、地域行事は中止)本荘街づくり協議会福祉部への参加をしている。	自治会に加入している。自治会とは、防災に必要な備品や緊急時の利用者支援方法についての助言、地域住民との連携方法についても話し合える良好の関係にある。今年は敬老会が開催され、出席している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染対策により、運営推進会議の開催方法について、市役所からの指示があり、お客様をお招きできず、GHでのコロナ感染予防や災害への取組みも含め話し合った事を郵送、又はメールにて報告し、アンケートを頂く形になった。市役所にはアンケート内容も添えて報告している。	コロナ禍以前は、事業所行事と併せて会議を開催し、利用者の様子や活動を見てもらっていた。現在は書面開催とし、事業所内で行った防災訓練や七夕まつり、感染症防止対策等についてまとめた議事録を運営推進委員に送付し、意見・質問・要望を求め、届いた意見等を運営に反映させている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課からは2ヶ月に1回会議への参加がある。(現在は参加中止中)又、生活福祉室や民生委員の方にも近況報告等行い、連絡を密にし、協力関係を築いている。本荘まちづくり協議会への参加をしている。	以前は、市担当者が運営推進会議に参加し、介護保険の動向や最新情報、助言等を受けていた。今は、事業所の感染予防対策や利用者の様子、困難事例、運営推進会議の議事録と共に報告を行い、意見交換もしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会にて現状の確認、問題点を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵に関しては、以前、職員が気付かず、お一人で外出された事があった。気を付けていても何度かあり、家族の方にも説明し、生命の安全の為家族の了解を得て、鍵をかけている。	身体拘束等の適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、併せて研修会も行っている。新聞等で話題になった虐待事件や拘束事例を挙げて、問題点を話し合っている。現在、拘束が必要な利用者はないが、研修で正しく学び、全職員に文書で周知し、ミーティングでも共有している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の周知と掲示、又、契約書には身体拘束を行わない事を述べており、職員にはその他の虐待も行わない様、注意している。虐待防止委員会(3ヶ月毎)の議事録や研修内容を全職員に周知している。	虐待防止委員会を定期的に開催している。虐待行為と虐待につながりやすいグレーなケアについて学び、職員間で常に意識しながら、注意喚起している。管理者は、職員一人ひとりとコミュニケーションを深め、心身ともにストレスを抱えないよう配慮しながら、虐待防止につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身内のみえない方には、きずなの会との契約を結ぶよう支援している。又、グループホーム協議会の勉強会に参加。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、分かりにくい事は具体的に説明したり、質問を受けたら丁寧に説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し出窓口を設置し、第三者委員2名依頼している。又、民生委員が月に1度訪談し、入居者に声を掛けて下さっている。家族の訪問時に話しやすい環境を作っている。	家族には、利用者の食事・排泄・入浴・介護計画の進捗状況、健康状態などを記載した月次報告書を送付している。また、隔月に行事の様子と運営状況がわかるホーム便りを写真付きで送付している。家族の訪問時に意見や希望を聴いたり、LINEを活用するなど、迅速に対応しながらサービス向上につなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ問い掛けたり、聞き出したりするようにしている。勤務体制、利用者の受け入れや、職員の交代等について、現場に従事する職員の意見を聞くようにしている。	長く勤務する複数の職員がおり、管理者やリーダーにも意見や提案を言える風通しの良い関係にある。互いの意見を尊重して話し合い、役職の区別なく全職員が支え合って運営に携わっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	日頃の介護業務の中で問題や不安な点など出してもらい、解決できるよう助言や話し合いの場を持つようにしている。	パート職員の場合、事前に就業可能な曜日や希望の勤務時間等を確認した上で雇用している。管理者は、職員個々のワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務体制、就業条件等について、話し合いながら整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の講習会や介護支援専門員の研修、又、認知症のケア講習会等、参加。資料を職員が共有できるよう閲覧している。自己評価を年2回行い、評価をもとに目標を設定するポジティブプランを取り組んでいる。(現在はZOOMでの研修参加を行っている)	管理者は、内部研修や外部研修の機会を多く設けている。専門職として必要な研修や資格取得を奨励し、勤務調整や費用の補助でバックアップしている。また、職員個々が目標を設定し、達成度を自己評価しながら資質向上に繋がられるよう、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の会員になっており、他のホームとの交流や、支部会、講演会、勉強会等、参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や食後の片付け、洗濯物干し、たたみ等の家事仕事をして頂いたり”おばあちゃんの知恵袋”などや意見を求めたりしている。お祝い事の喜びや、笑い、又は、不安や不満などの気持ちの共有を心掛けている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の人格を尊重し、コミュニケーションを多くとり、入居者の言葉に耳を傾けたり、行動や表情から本人の意思を把握するように努めている。	入浴や排泄支援等の個別ケア時に、利用者との会話やしぐさなどから、思いや意向を把握している。利用者の思いを家族に伝え、家族との絆の橋渡しができるよう工夫しながら、寄り添う支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意思を含め、職員とも話し合い作成している。毎月のモニタリングはもちろん、計画書の見直し前には本人との面談や家族の方に、生活に対する意向をお聞きしておき、ケアカンファレンスを開き、計画書を作成している。	介護計画作成時には、事前に家族から意見や希望を聞いている。管理者、ケアマネジャー、医師、職員の意見を参考にしながら介護計画案を作成している。家族に説明し、意見交換を行い現状に即した介護計画としている。	新型コロナウイルス感染症が収束した際には、事前に家族と日程調整を行った上で、家族参加での介護計画作成会議が開かれることを期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、特に共有したい事項は申し送り帳にも記入し、個別にその都度職員が記入できる様に「体調・認知機能・ADLの変化」「相談したい所」等、机の上に置き、全員が共有し、ミーティングやケアカンファレンス時に話し合い実践できるよう取り組み、又、計画書の見直しにいかしている。	日々のケアにおいて、職員が気が付いた事、利用者ができたこと、無理なことなど、個別記録や申し送り帳に詳細に記入し職員間で共有している。その記録を土台にして職員が話し合い、介護計画の見直しに繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や申請等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。又、地域での行事の参加や、通院時等、職員を増員し対応している。	協力医の指示で他の病院に行く場合は、家族と連携して職員が同行している。今は外出を控えているが、利用者の希望する外出支援も職員を増員して支援している。毎月のフラワーアレンジメントも、利用者を楽しみとなり、継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラワーアレンジや絵手紙などボランティアの先生が来て下さり、楽しみにしている。又、民生委員は月に1回訪設し、入居者に話し掛けて下さる。現在はフラワーアレンジの先生は来て頂けないが、フラワーアレンジは継続して行っている。民生委員様は玄関先にて月1回の訪問時に現状をお伝えしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医以外の御希望もお聞きし、納得を得ている。2Wに1度往診、必要な検査等は、指示により行っている。希望時には訪問歯科もお願いしている、等、複数の医療機関と関係を密にしている。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の指針を説明し、利用者と家族が納得した上で選択している。協力医は隔週の往診があり、必要時には歯科医の往診もある。訪問看護師による日々の健康管理、他の医療機関との連携で利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には頻りに病院に行き、ナースステーションに寄り、状況を聞き、医療機関と連携している。又、本人を見舞い、早く退院できるよう、励まし等声掛けしている。社会福祉法人和光会及び山田病院とも契約し、入院時等、迅速な対応をして頂いている。	利用者の入退院時には、医師、訪問看護師の指導を得ながら、管理者が責任を持って対応している。また、職員にも利用者の状態や情報を適宜伝え、家族とは早期回復、退院に向けて連携を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関しての話し合いは、早めに医師よりの指示で家族に伝え、話し合いの場を設けている。訪問看護との契約により今までよりも医療面での連携がとれている。	契約時に、重度化や終末期についての指針を説明し同意を得ている。利用者の状態によっては、早い段階で関係者が話し合い、事業所で出来る対応について説明している。終末期には医師や看護師から指導を受けながら家族を支え、支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に行っている。 応急処置、初期対応、緊急連絡網については年に1回研修を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月と10月の年2回、避難訓練を行っている。又、本荘まちづくり協議会の福祉部にて、地域の中でお互いに協力し合えるよう話し合っている。 年に1回水害用の避難訓練も行っている。 災害時用に住所や氏名、連絡先等が記入されたネームプレートを使用している。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を運営推進会議と併せ、委員や家族の協力を得て実施している。火災訓練では、顔写真と個人情報が入った災害時用のネームプレート(腕輪型)を利用者が身に付け、参加している。地震や水害時についても、地域と協力して災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けの大切さを職員で考えながら対応している。個人情報に関しては守秘義務の徹底を職員全員が守っている。	職員研修として、プライバシー保護と傾聴について学んでいる。利用者一人ひとりの人格を尊重し、常にプライバシーを損ねない対応に努めている。また、入浴や排泄支援時には、羞恥心にも配慮し、耳元で声掛けするよう心がけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物など外出の希望やその他の思いを言い出しやすいよう対応している。又、入浴などの順番の譲り合い等の気持ちを大切にしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での対応や、行動、無理強いが無い様気をつけている。食事や入浴等、体調や気分、希望に合わせ、無理に決まった時間だからと行わないよう対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを把握し、献立に生かしている。又、料理の本と一緒に見たりして会話の中で献立の希望等お聞きしている。調理は職員が行っているが、本人が出来ること、テーブル拭きや食器拭き等、簡単な後片付け等を一緒に行っている。レクリエーションの一環として、おやつ作りを設け、季節にあったおやつ(おはぎ、芋パン、豆腐、ホットケーキ等)楽しみながら一緒に作っている。	栄養士や看護師の指導も受けながら、利用者個々の体調や栄養状態を把握した上で、職員が交代で調理し、適切な食事形態で提供している。利用者のリクエスト献立や誕生日の特別食、おやつや行事食を取り入れ、食べる楽しみに繋げながら支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度体重のチェック、又、主治医の指示で摂取量の調整を行っている。食事内容や食事、水分の摂取量を記録している。低栄養のおそれのある場合、高カロリー栄養剤や職員が少しでも食べて頂けるよう努力している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けや磨き残しの手助けをしている。問題のある方は訪問歯科診療にて定期的に診察を受けている。	協力歯科医の往診があり、職員は歯科衛生士から口腔ケアの指導を受けている。毎食後、自分で歯磨き出来る利用者には声掛けをし、手助けが必要な人は職員がサポートしながら口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

岐阜県 アーバンケア三歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ(リハビリパンツ)の方もなるべくトイレにて排泄して頂くよう、排泄パターンを把握し、定期的に声を掛け、排泄の間隔が空いていればトイレ誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週3回曜日を決めているが、体調や気分に合わせて無理に行わず、曜日変更や、清拭・足浴等への変更を、臨機応変に行っている。現在は新型コロナウイルス感染予防対策として、市役所から指示があり、週3回の内1回を希望された方のみ清拭対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間はなるべく居間や食堂で皆と過ごして頂いているが、お好きなように個室でも過ごせる様配慮し、一人一人に応じ、日中の居眠りや昼寝があまり長くない様、様子を見ながら対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量はチェック表を作り、医師の指示に従い、飲み間違いのない様努めている。副作用は薬の説明書をファイルに入れ、机上に置き、見やすいようにしてある。	利用者の薬は同一薬局から、一包化した形で届いている。職員は、薬効や変更時の説明を薬剤師から聞き把握している。誤配が無いようチェックし、利用者が飲み込むまでの確認を徹底させている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性は家事等行いたがらないが、女性は、掃除、洗濯干し、たたみ、簡単な食後の後片付け等、進んで行っている。フラワーアレンジや絵手紙は男性も楽しんで参加され、スイカ割り・クリスマス会等の季節毎の楽しみ会を行っている。ご利用者の誕生日には、お赤飯とケーキでお祝いしている。ご利用者様と健康で過ごせた事への喜びを共有しています。	日々の生活の中で、利用者自身が出来る事は手伝ってもらい、職員が労いの言葉を伝えている。作業の楽しみは男女の差もあるが、それらを繰り返していく事で、利用者が出来る事が増え、役割りと感じ、自信に繋がっている。また、季節に合わせた食事や行事食を用意し、潤いのある暮らしになるよう工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等の外出を行っている。外出チェック表を作り活用している。新型コロナウイルスの影響で地域のイベントは中止となっている。	コロナ禍で外出は自粛しているが、車や人の往来が少ない場所に立地しており、安全に近隣を散歩することができる。コロナ感染症が収束した際には、利用者が望む近隣の喫茶店やドラッグストアでの買い物に行く予定である。個別外出は、家族と相談しながら支援している。	

岐阜県 アーバンケア三歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていたいと希望のある方には小額の現金を持ってもらっていたが、トラブルがたびたびあり、現在はホームでお預かりして必要時にお渡ししている。買い物時の支払い等はさりげなく支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望された時は家族の事情も踏まえ、配慮しつつさりげなく支援している。年賀状を出したい方にも記入時できるだけ御自分で書いて頂き、支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や設備は家庭的なものにしてある。又、季節感を取り入れた食事やおやつ、祝い事等は、赤飯やチラシ寿司を茶碗ではなくフタ付きの小さい重箱に入れたり工夫している。	共用の空間は広く、毎年、地域の文化祭に出席した貼り絵や数年分の思い出新聞などを貼り出している。活動の一環で作るフラワーアレンジメントの花が毎月替わり、季節感のある居心地よい場所になっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2ヶ所設置、テレビも2台あり、くつろげて自由に過ごせる場所を作っている。又、居室にて過ごせる時間も各自の希望に合わせて工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、なじんだ物を持ってきてもらうようにしている。(タンス、ベット、仏壇、写真等)		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」を見だし、できる限り自分でできる事は行えるよう援助している。利用者一人一人に適した位置や大きさの部屋を用意している。また部屋、トイレ、浴室には場所がわかるよう名札をつけ、床は転倒しても怪我がないように、絨毯を敷きつめている。トイレ、浴槽には手すりの設置。必要な方は電動ベットも用意している。		